

草津市建築工事共通費基準

草津市 公共建築課

1 共通費の区分と内容

共通費は、「共通仮設費」、「現場管理費」および「一般管理費等」に区分し、それぞれ表-1～表-4の内容を一式として計上する。

ただし、共通費を算定する場合の直接工事費には、本設のための電力、水道等の各種負担金は含まないものとする。

表-1 共通仮設費

項 目	内 容
準 備 費	敷地測量、敷地整理、道路占用・使用料、仮設用借地料、その他の準備に要する費用
仮 設 建 物 費	監理事務所、現場事務所、倉庫、下小屋、宿舍、作業員施設等に要する費用
工 事 施 設 費	仮囲い、工事用道路、歩道構台、場内通信設備等の工事用施設に要する費用
環 境 安 全 費	安全標識、消火設備等の施設の設置、交通誘導・安全管理等の要員、隣接物等の養生および補償復旧ならびに台風等災害に備えた災害防止対策に要する費用
動力用水光熱費	工事用電気設備および工事用給排水設備に要する費用ならびに工事用電気・水道料金等
屋外整理清掃費	屋外・敷地周辺の跡片付けおよびこれに伴う屋外発生材処分等ならびに端材等の処分および除雪に要する費用
機 械 器 具 費	共通的な工事用機械器具（測量機器、揚重機械器具、雑機械器具）に要する費用
情報システム費	情報共有、遠隔臨場、BIM、その他情報通信技術等のシステム・アプリケーションに要する費用
そ の 他	材料および製品の品質管理試験に要する費用、その他上記のいずれの項目にも属さない費用

表一2 現場管理費

項 目	内 容
労 務 管 理 費	現場雇用労働者（各現場で元請企業が臨時に直接雇用する労働者）および現場労働者（再下請を含む下請負契約に基づき現場労働に従事する労働者）の労務管理に要する費用 <ul style="list-style-type: none"> ・募集および解散に要する費用 ・慰安・娯楽および厚生に要する費用 ・純工事費に含まれない作業用具および作業用被服等の費用 ・賃金以外の食事、通勤費等に要する費用 ・安全・衛生に要する費用および研修訓練等に要する費用 ・労災保険法による給付以外に災害時に事業主が負担する費用
租 税 公 課	工事契約書等の印紙代、申請書・謄抄本登記等の証紙代、固定資産税・自動車税等の租税公課、諸官公署手続き費用
保 險 料	火災保険、工事保険、自動車保険、組立保険、賠償責任保険、法定外の労災保険およびその他の損害保険の保険料
従業員給料手当	現場従業員（元請企業の社員）および現場雇用従業員（各現場で元請企業が臨時に直接雇用する従業員）ならびに現場雇用労働者の給与、諸手当（交通費、住宅手当等）、賞与および外注人件費（「施工図等作成費」を除く。）に要する費用
施工図等作成費	施工図・完成図等の作成に要する費用
退 職 金	現場従業員に対する退職給付引当金繰入額および現場雇用従業員、現場雇用労働者の退職金
法 定 福 利 費	現場従業員、現場雇用従業員、現場雇用労働者および現場労働者に関する次の費用 <ul style="list-style-type: none"> ・現場従業員、現場雇用従業員および現場雇用労働者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料および厚生年金保険料の事業主負担額 ・現場労働者に関する労災保険料の事業主負担額 ・建設業退職金共済制度に基づく証紙購入代金
福 利 厚 生 費	現場従業員に対する慰安、娯楽、厚生、貸与被服、健康診断、医療、慶弔見舞等に要する費用
事 務 用 品 費	事務用消耗品費、OA 機器等の事務用備品費、新聞・図書・雑誌等の購入費、工事写真・完成写真代等の費用
通 信 交 通 費	通信費、旅費および交通費
補 償 費	工事施工に伴って通常発生する騒音、振動、濁水、工事用車両の通行等に対して、近隣の第三者に支払われる補償費。ただし、電波障害等に関する補償費を除く。
そ の 他	会議費、式典費、工事实績の登録等に要する費用、各種調査に要する費用、その他上記のいずれの項目にも属さない費用

表一3 一般管理費

項 目	内 容
役員報酬等	取締役および監査役に要する報酬および賞与（損金算入分）
従業員給料手当	本店および支店の従業員に対する給与、諸手当および賞与（賞与引当金繰入額を含む。）
退職金	本店および支店の役員および従業員に対する退職金（退職給与引当金繰入額および退職年金掛金を含む。）
法定福利費	本店および支店の従業員に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料および厚生年金保険料の事業主負担額
福利厚生費	本店および支店の従業員に対する慰安、娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等の福利厚生等に要する費用
維持修繕費	建物、機械、装置等の修繕維持費、倉庫物品の管理費等
事務用品費	事務用消耗品費、固定資産に計上しない事務用備品、新聞参考図書等の購入費
通信交通費	通信費、旅費および交通費
動力用水光熱費	電力、水道、ガス等の費用
調査研究費	技術研究、開発等の費用
広告宣伝費	広告、公告または宣伝に要する費用
交際費	得意先、来客等の接待、慶弔見舞等に要する費用
寄付金	社会福利団体等に対する寄付
地代家賃	事務所、寮、社宅等の借地借家料
減価償却費	建物、車両、機械装置、事務用備品等の減価償却額
試験研究償却費	新製品または新技術の研究のための特別に支出した費用の償却額
開発償却費	新技術または新経営組織の採用、資源の開発ならびに市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額
租税公課	不動産取得税、固定資産税等の租税および道路占有料その他の公課
保険料	火災保険その他の損害保険料
契約保証費	契約の保証に必要な費用
雑費	社内打合せの費用、諸団体会費等の上記のいずれの項目にも属さない費用

表一4 付加利益等

法人税、都道府県民税、市町村民税等（表一3の租税公課に含むものを除く）
株主配当金
役員賞与（損金算入分を除く）
内部留保金
支払利息および割引料、支払保証料その他の営業外費用

2 共通仮設費の算定

- (1) 共通仮設費は、表一1の内容について、費用を積み上げにより算定するか、過去の実績等に基づく直接工事費に対する比率（以下「共通仮設費率」という。）により算定する。ただし、共通仮設費率を算定する場合の直接工事費には、処分費を含まないものとする。
- (2) 共通仮設費率は、別表一1から別表一7によるものとする。
なお、共通仮設費率に含まれない内容については、必要に応じ別途積み上げにより算定して加算する。
- (3) 当該共通仮設費率に含まれる内容は、表一5および表一6とする。ただし、設計図書に基づく以下の費用は含まれない。
- ・現場環境改善費
 - ・工事場所以外の屋外整理清掃費
 - ・新たな施策等の試行による特別な費用

表一5 建築工事の共通仮設費率に含む内容

項 目	内 容
準 備 費	敷地整理(新宮の場合)、道路占用・使用料、その他の準備に要する費用
仮 設 建 物 費	監理事務所(敷地内)、現場事務所(敷地内)、倉庫、下小屋、作業員施設等に要する費用
工 事 施 設 費	場内通信設備等の工事用施設に要する費用
環 境 安 全 費	安全標識、消火設備等の施設の設置、隣接物等の養生および補償復旧に要する費用、台風等災害に備えた災害防止対策に要する費用のうち一般的なものの費用
動力用水光熱費	工事用電気設備および工事用給排水設備に要する費用ならびに工事用電気・水道料金等
屋外整理清掃費	屋外・敷地周辺の跡片付けおよびこれに伴う発生材処分ならびに端材等の処分に要する費用
機 械 器 具 費	測量機器および雑機械器具に要する費用
そ の 他	公共建築工事標準仕様書に基づく試験費、レディーミクストコンクリートの単位水量試験費、特記仕様書にて定める試験のうち軽微な試験費、その他上記のいずれの項目にも属さないもののうち軽微なものの費用

表一6 電気設備工事、機械設備工事および昇降機設備工事の共通仮設費率に含む内容

項 目	内 容
準 備 費	その他の準備に要する費用
仮 設 建 物 費	現場事務所(敷地内)、倉庫、下小屋、作業員施設等に要する費用
工 事 施 設 費	場内通信設備等の工事用施設に要する費用
環 境 安 全 費	安全標識、消火設備等の施設の設置に要する費用、台風等災害に備えた災害防止対策に要する費用のうち一般的なものの費用
動力用水光熱費	工事用電気設備および工事用給排水設備に要する費用ならびに工事用電気・水道料金等
屋外整理清掃費	屋外・敷地周辺の跡片付けおよびこれに伴う発生材処分ならびに端材等の処分に要する費用
機 械 器 具 費	測量機器および雑機械器具に要する費用
そ の 他	上記のいずれの項目にも属さないもののうち軽微なものの費用

- (4) 建築工事の発注において、鉄骨造および鉄骨鉄筋コンクリート造の主体構造物に係わる鉄骨工事については、共通仮設費率の補正を行う。
- (5) 昇降機設備工事を除く製造業者・専門工事業者に単独発注する場合は、別途共通仮設費を算定する。
- (6) 設計変更における共通仮設費については、共通仮設費を積み上げにより算定した場合は設計変更においても積み上げにより算定し、比率により算定した場合は設計変更においても比率により算定する。
この場合の共通仮設費は、設計変更の内容を当初発注工事内に含めた場合の共通仮設費を求め、当初発注工事の共通仮設費を控除した額とする。
- (7) 共通仮設率の補正は原則として行わないが、必要が生じた場合、別途決裁を得て、増減率、補正係数を定めることができる。

3 現場管理費の算定

- (1) 現場管理費は、表一2の内容について、費用を積み上げにより算定するか、過去の実績等に基づく純工事費に対する比率（以下「現場管理費率」という。）により算定する。ただし、現場管理費率を算定する場合の純工事費には、処分費を含まないものとする。
- (2) 現場管理費率は、別表一8から別表一14によるものとする。
なお、現場管理費率に含まれない特記事項については、別途積み上げにより算定して加算する。
- (3) 現場管理費率に含まれる内容は表一2による。
- (4) 建築工事の発注において、鉄骨造および鉄骨鉄筋コンクリート造の主体構造物に係わる鉄骨工事については、現場管理費率の補正を行う。
- (5) 昇降機設備工事を除く製造業者・専門工事業者に単独発注する場合は、別途現場管理費を算定する。
- (6) 設計変更における現場管理費については、現場管理費を積み上げにより算定した場合は設計変更においても積み上げにより算定し、比率により算定した場合は設計変更においても比率により算定する。
この場合の現場管理費は、設計変更の内容を当初発注工事内に含めた場合の現場管理費を求め、当初発注工事の現場管理費を控除した額とする。
- (7) 現場管理費率の補正は原則として行わないが、必要が生じた場合、別途決裁を得て、増減率、補正係数を定めることができる。

4 一般管理費等の算定

- (1) 一般管理費等は、表—3 および表—4 の内容について、工事原価に対する比率により算定する。なお、契約保証費については、必要に応じて別途加算する。
- (2) 一般管理費等率は、別表—15 から別表—17 による。
- (3) 昇降機設備工事を除く製造業者・専門工事業者に単独発注する場合は、別途一般管理費等を算定する。
- (4) 設計変更における一般管理費等については、設計変更の内容を当初発注工事内に含めた場合の一般管理費等を求め、当初発注工事の一般管理費等を控除した額とする。
ただし、設計変更については、契約保証費にかかる補正を行わない。
- (5) 一般管理費率の補正は原則として行わないが、必要が生じた場合、別途決裁を得て、増減率を定めることができる。

別表—1 共通仮設費率（新営建築工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (3.346 - 0.282 \times \log_e P + 0.625 \times \log_e T)$ (注2・3)
	K _r : 共通仮設費率 (%) (注4)
	P : 直接工事費 (千円)
	T : 工期 (か月)
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> <p style="text-align: center;">$10,000 \text{ (千円)} \leq P \leq 5,000,000 \text{ (千円)}$</p> <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表—2 共通仮設費率（改修建築工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (3.962 - 0.315 \times \log_e P + 0.531 \times \log_e T)$ (注2・3)
	K _r : 共通仮設費率 (%) (注4)
	P : 直接工事費 (千円)
	T : 工期 (か月)
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> <p style="text-align: center;">$3,000 \text{ (千円)} \leq P \leq 1,000,000 \text{ (千円)}$</p> <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-3 共通仮設費率（新営電気設備工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (3.086 - 0.283 \times \log_e P + 0.673 \times \log_e T)$ (注2・3)
	K _r : 共通仮設費率 (%) (注4)
	P : 直接工事費 (千円)
	T : 工期 (か月)
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) Exp ()は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数(自然対数の底)を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> <p style="text-align: center;">10,000 (千円) \leq P \leq 1,000,000 (千円)</p> <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-4 共通仮設費率（改修電気設備工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (1.751 - 0.119 \times \log_e P + 0.393 \times \log_e T)$ (注2・3)
	K _r : 共通仮設費率 (%) (注4)
	P : 直接工事費 (千円)
	T : 工期 (か月)
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) Exp ()は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数(自然対数の底)を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> <p style="text-align: center;">3,000 (千円) \leq P \leq 1,000,000 (千円)</p> <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-5 共通仮設費率（新営機械設備工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (2.173 - 0.178 \times \log_e P + 0.481 \times \log_e T)$ (注2・3)
	K _r : 共通仮設費率 (%) (注4)
	P : 直接工事費 (千円)
	T : 工期 (か月)
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) Exp ()は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数(自然対数の底)を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> <p style="text-align: center;">10,000 (千円) \leq P \leq 1,000,000 (千円)</p> <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-6 共通仮設費率（改修機械設備工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (2.478 - 0.173 \times \log_e P + 0.383 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $K_r \quad : \quad \text{共通仮設費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $P \quad : \quad \text{直接工事費} (\text{千円})$ $T \quad : \quad \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> $3,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-7 共通仮設費率（昇降機設備工事）

共通仮設費率 (注1)	$K_r = \text{Exp} (4.577 - 0.323 \times \log_e P) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $K_r \quad : \quad \text{共通仮設費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $P \quad : \quad \text{直接工事費} (\text{千円})$
<p>(注1) 本表の共通仮設費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) Pが以下の範囲を外れる場合は、共通仮設費を別途定めることができる。</p> $5,000 (\text{千円}) \leq P \leq 500,000 (\text{千円})$ <p>(注4) K_rの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-8 現場管理費率（新営建築工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (5.899 - 0.447 \times \log_e N_p + 0.831 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o \quad : \quad \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p \quad : \quad \text{純工事費} (\text{千円})$ $T \quad : \quad \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $10,000 (\text{千円}) \leq P \leq 5,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表－9 現場管理費率（改修建築工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (7.079 - 0.538 \times \log_e N_p + 0.773 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$ $T : \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $3,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表－10 現場管理費率（新営電気設備工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (5.961 - 0.387 \times \log_e N_p + 0.629 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$ $T : \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $10,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表－11 現場管理費率（改修電気設備工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (6.038 - 0.431 \times \log_e N_p + 0.736 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$ $T : \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $3,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-12 現場管理費率（新営機械設備工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (4.723 - 0.252 \times \log_e N_p + 0.428 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$ $T : \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $10,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-13 現場管理費率（改修機械設備工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (6.221 - 0.461 \times \log_e N_p + 0.800 \times \log_e T) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$ $T : \text{工期} (\text{か月})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $3,000 (\text{千円}) \leq P \leq 1,000,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-14 現場管理費率（昇降機設備工事）

現場管理費率 (注1)	$J_o = \text{Exp} (7.438 - 0.448 \times \log_e N_p) \quad (\text{注} 2 \cdot 3)$ $J_o : \text{現場管理費率} (\%) \quad (\text{注} 4)$ $N_p : \text{純工事費} (\text{千円})$
<p>(注1) 本表の現場管理費率は、施工場所が一般的な市街地の比率である。</p> <p>(注2) $\text{Exp} ()$は、指数関数 $e^{()}$を表す。eは、ネイピア数（自然対数の底）を表す。</p> <p>(注3) N_pが以下の範囲を外れる場合は、現場管理費を別途定めることができる。</p> $5,000 (\text{千円}) \leq P \leq 500,000 (\text{千円})$ <p>(注4) J_oの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。</p>	

別表-15 一般管理費等率（建築工事）

工事原価	5百万円以下	5百万円を超え 30 億円以下	30 億円を超える
一般管理費等率	17.24%	一般管理費等率算定式により算定された率	8.43%
算定式 $G_p = 28.978 - 3.173 \times \log_{10}(C_p)$ ただし、 G_p ：一般管理費等率(%) C_p ：工事原価(千円) 注 1. G_p の値は、小数点以下第 3 位を四捨五入して 2 位止めとする。			

別表-16 一般管理費等率（電気設備工事）

工事原価	3百万円以下	3百万円を超え 20 億円以下	20 億円を超える
一般管理費等率	17.49%	一般管理費等率算定式により算定された率	8.06%
算定式 $G_p = 29.102 - 3.340 \times \log_{10}(C_p)$ ただし、 G_p ：一般管理費等率(%) C_p ：工事原価(千円) 注 1. G_p の値は、小数点以下第 3 位を四捨五入して 2 位止めとする。			

別表-17 一般管理費等率（機械設備工事）

工事原価	3百万円以下	3百万円を超え 20 億円以下	20 億円を超える
一般管理費等率	16.68%	一般管理費等率算定式により算定された率	8.07%
算定式 $G_p = 27.283 - 3.049 \times \log_{10}(C_p)$ ただし、 G_p ：一般管理費等率(%) C_p ：工事原価(千円) 注 1. G_p の値は、小数点以下第 3 位を四捨五入して 2 位止めとする。			

付 則

この基準は、平成 14 年 12 月 5 日から施行する。

付 則

この基準は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この基準は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この基準は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この基準は、令和 4 年 4 月 1 日より課名変更に伴い改訂する。

付 則

この基準は、令和6年4月1日から施行する。